

しあわせ

第67号 2008・3



検診センターのホールを利用し
絵画などの作品を展示

**いよいよ特定健診・
特定保健指導がはじまります**



財団法人 山形県結核成人病予防協会

いよいよ特定健診・特定保健指導が始まります

平成20年4月から特定健診・特定保健指導が始まります。概略については前号で掲載いたしました。今回は受診、結果通知までの流れ及び特定保健指導の階層化とその内容について説明いたします。

◎健診の流れ

これまでは、図1のように市町村や事業主から受診の案内があり、健診機関や医療機関で健診を受診します。健診結果は、市町村や事業主に送られた後、受診者本人に通知されてきました。

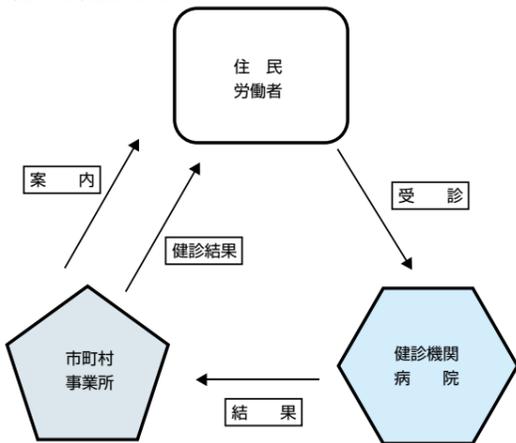
これからは、図2のように40歳から74歳までの場合、医療保険者が健診の窓口になります。まず自分の加入している医療保険者を確認します。その医療保険者から健診の案内が届き、健診機関や医療機関で健診を受診します。健診結果は、各医療保険者に届き、受診者本人に通知されるとともに、特定保健指導の案内があります。

ただし、各がん検診など特定健診以外の検診については、医療保険の種類に関係なく、市

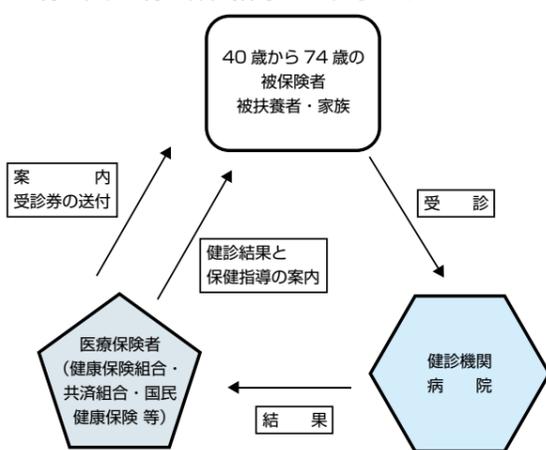
町村で実施するがん検診を受診することができます。また、事業所で働いている方は、事業所で行

う労働安全衛生法に基づく健診が優先されますので、事業所の健康管理担当者にお尋ねください。

(図1) ◎従来の健診の流れ



(図2) ◎特定健診、特定保健指導の基本的な流れ



◎特定健診

健診では、受診者がメタボリックシンドローム、またはその予備群かどうかを調べます。そのため健診では普段の状態がわかるように急な減量や禁酒、禁煙をしないで受診するようにしましょう。

検査項目

- 問診、身体計測、血圧測定など
- 生活習慣の情報収集や身長、体重、腹囲、血圧などを調べます。
- 脂質の検査
血液中の脂質(中性脂肪やコレステロールなど)を調べます。
- 代謝系の検査
糖尿病発見の手がかりとなる血糖を調べます。
- 肝機能の検査
肝機能の障害の有無を調べます。
- 尿、腎機能の検査
腎機能の障害の有無を調べます。

◎特定保健指導

健診の結果、健康の保持に努める必要がある方に対して特定保健指導が実施されます。健

診結果により、別表により階層化され、「動機づけ支援」、「積極的支援」の保健指導が行われます。

腹 囲	追加リスク			④喫煙歴	対 象	
	①血糖	②脂質	③血圧		40~64歳	65~74歳
≥85cm(男性) ≥90cm(女性)	2つ以上該当			/	あり	積極的支援 動機付け支援
	1つ該当				なし	
上記以外で BMI≥25	3つ該当			/	あり	積極的支援 動機付け支援
	2つ該当				なし	
	1つ該当				/	

※喫煙歴の斜線欄は、階層化の判定が喫煙歴の有無が関係ないことを意味する。
①血糖は、空腹時血糖が100mg/dl以上、またはHbA1cが5.2%以上
②脂質は、中性脂肪が150mg/dl以上、またはHDLコレステロールが40mg/dl未満
③血圧は、収縮期が130mmHg以上、または拡張期が85mmHg以上

ただし、糖尿病又は高脂血症の治療に係る薬剤を服用している方は最終的に積極的支援及び動機付け支援から除かれます。

☆各支援の内容

	動機付け支援	積極的支援
対象者	生活習慣の改善が必要で、改善の意思決定の支援を要する者	生活習慣の改善が必要で、継続的できめ細やかな支援を要する者
支援期間	原則1回の面接	3カ月以上(継続的に支援)
内 容	医師や保健師、管理栄養士の指導のもと、対象者自らが生活習慣改善のための行動計画を策定。6カ月経過後に指導者が実績の評価を行う。	策定した行動計画を対象者が自主的かつ継続的に行えるよう、指導者が定期的・継続的に面談や電話などで支援する。6カ月経過後に指導者が実績の評価を行う。

◎特定健診・特定保健指導に関する詳しいことは…

国民健康保険に加入されている方は市町村の国民健康保険の係の方に、その他の健康保険に加入されている方は、それぞれの医療保険者にお尋ねください。

平成18年がん部位別死亡数・率まるとまる。

平成18年のがんの部位別死亡数・率がまるとまりました。

全国のがんによる死亡者数は、329,314人で死因の第1位、26年連続で死因の1位となりました。部位別では、昨年同様肺がんが1位で63,225人、2位は胃がんが50,415人、3位は大腸がんが41,056人の順となっております。山形県の場合も肺がんが765人で1位、胃がんが719人で2位、大腸がんが433人で3位となっております。

一方、都道府県別に死亡率(人口10万対)の順位を見ると、山形県は全がんで4位、部位別では肺がんと胃がんが2位となっております。

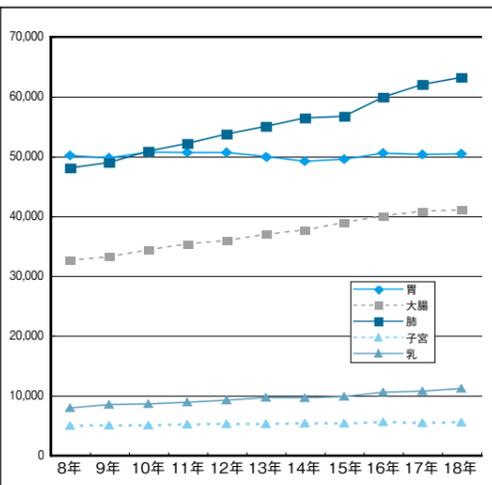
がんによる死亡者は、年々増加を続け、2位の心疾患、3位の脳血管疾患に大きく差をつけています。

がんの予防には、食生活の改善や禁煙による一次予防に加え、やはり検診による二次予防が大切です。医療技術の進歩によりがんは決して不治の病ではなくなりました。しかし早期発見・早期治療が大切ですので、定期的に検診を受けるようにしましょう。

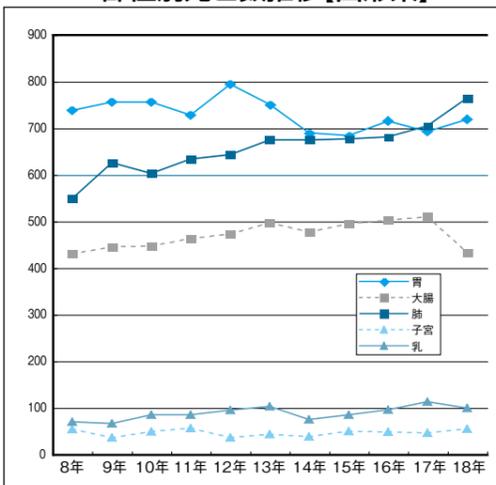
平成18年がん部位別死亡率(人口10万対)上位5位(確定数)

	全国	17年					16年		
		1位	2位	3位	4位	5位	山形県	山形県	
全がん	329,314人 261.0	秋田県 343.1	島根県 333.5	和歌山県 319.6	山形県 319.5	山口県 318.1	4位 319.5	8位 310.3	4位 309.1
胃がん	50,415人 40.0	秋田県 65.0	山形県 59.9	富山県 53.5	新潟県 52.5	香川県 49.2	2位 59.9	2位 57.0	2位 58.7
大腸がん	41,056人 32.5	秋田県 46.5	青森県 45.2	島根県 44.5	新潟県 39.7	岩手県 39.5	14位 36.1	5位 41.9	5位 41.2
肺がん	63,225人 50.1	和歌山県 65.4	山形県 63.7	長崎県 61.7	北海道 61.3	秋田県 60.4	2位 63.7	7位 58.0	7位 55.9
乳がん(女性)	11,177人 17.3	青森県 21.6	愛媛県 21.6	長崎県 20.2	東京都 19.5	大分県 19.1	33位 15.9	4位 17.9	31位 15.2
子宮がん	5,513人 8.5	熊本県 12.4	大分県 10.6	愛媛県 10.5	山口県 10.5	和歌山県 10.4	18位 8.8	39位 7.3	39位 7.6
前立腺がん	9,527人 15.5	島根県 26.1	岩手県 23.3	熊本県 22.1	福島県 21.6	鹿児島県 21.6	13位 20.0	22位 16.8	7位 19.6

部位別死亡数推移【全国】



部位別死亡数推移【山形県】



東北地区 集検放射線技術部会研修会 当県で開催される

去る1月25日(金)、東北6県の日本対がん協会支部の放射線技師を対象に標記研修会が、山形市を会場に開催されました。当研修会は、検診における撮影技術の向上を目的に東北各県持ち回りで開催されております。

当日は、シンポジウムⅠ、Ⅱと教育講演が行われ、シンポジウムⅠでは「乳がん検診のシステムの現状」と題し、デジタル装置の使用状況や視触診とマンモグラフィ併用検診の検診成績について活発な意見交換がなされました。続くシンポジウムⅡでは「胃がん検診におけるデジタル化の現



状」と題し討議され、デジタル化による検診成績や撮影・読影方法、運用について、各県の現状を発表、それに基づき情報交換が行われました。

最後に、「山形県における胃がん検診の状況」と題し、山形県立がん・生活習慣病センターがん対策部長の松田徹先生から講演をいただきました。

山形県は、現在胃がん検診受診率が1位であり、ほぼ全年齢層で男女問わず胃がんが減ってきていること、検診の精度管理としてがん登録が非常に重要であること、読影力向上のポイントなどについてお話いただきました。

当協会では、診療放射線技師、臨床検査技師、保健師、看護師、管理栄養士といった専門職、また事務職においても、受診者の皆さんにより良い検診、サービスを提供できるように各種研修会に参加し研鑽を積んでおります。今後も資質向上を図るためなお一層鋭意努力してまいります。

「がんに負けないために」 山形商工会議所が セミナー開催

現在、「がん」は年間33万人の命を奪い、27年連続で死因の1位となっております。

そこで、日本商工会議所と日本対がん協会が「がん対策」に関する各種連携事業を行うことになりました。このことを受け、山形商工会議所が健康普及啓発セミナーとして「がん」に関するセミナーを開催することになり、当協会でも日本対がん協会山形県支部として同セミナーを後援することとなりました。

去る3月13日(木)、山形県生涯学習センター(遊学館)において、約50名参加のもと同セミナーが開催されました。

その中で、山形大学大学院医学系研究科公衆衛生学講座教授の深尾彰先生から、「がんに負けないために」と題し講演がありました。

「がん」にならないためにどうすべきか、もし「がん」にかかった場合どうすべきか、つまり一次予防、二次予防の重要性についてお話をいただきました。結びに、検診は「がん対策」に非常に重要であり、現在、山形県は検診の受診率が非常に高いが、より一層検診を普及させ受診率の更なる向上が必要であると話されました。

広報媒体に仲間入り

是非ご活用ください

当協会では、健康教育用媒体物の貸し出し(無償)を行っております。

今回新しく「パネル」と「DVD」が仲間入りいたしました。

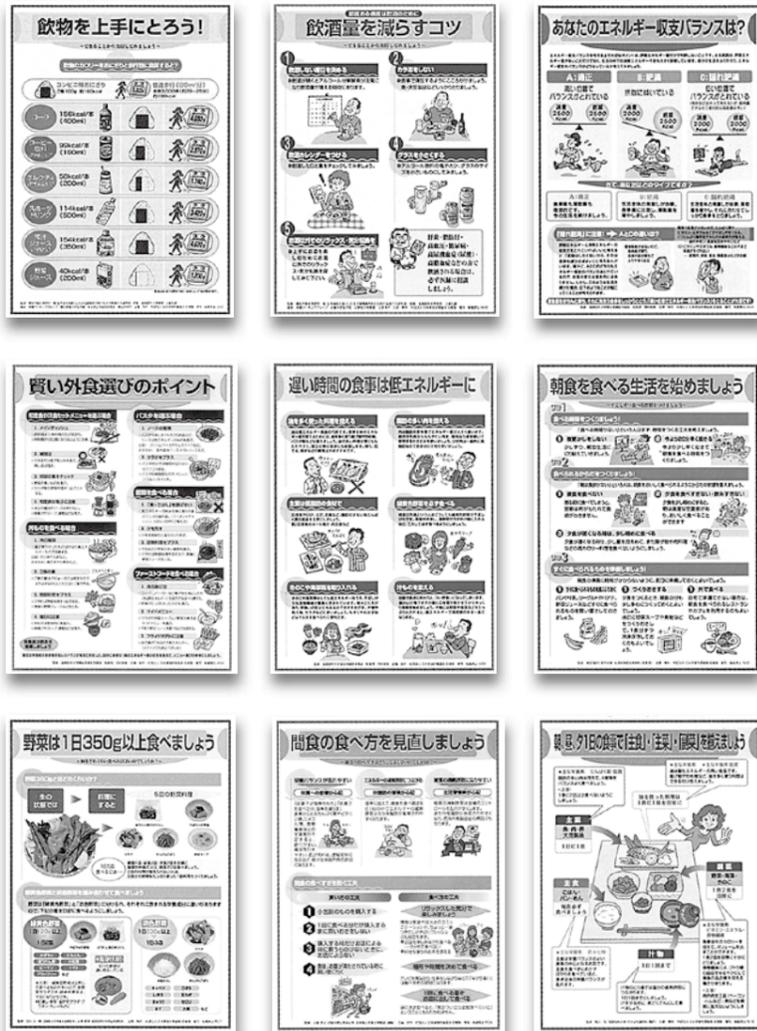
この他、模型、パネル、ビデオ等がありますので、健康まつり、健康教育で是非ご利用ください。

お問い合わせは、事務局総務係又は各検診センター庶務係までお願いいたします。

◎パネル

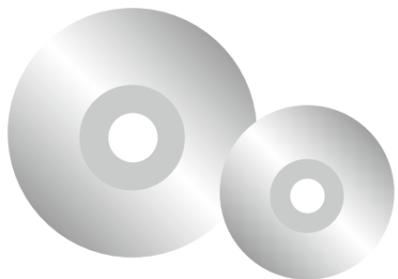
☆新「栄養シリーズ」

- ・飲物を上手にとろう
- ・飲酒量を減らすコツ
- ・あなたのエネルギー収支バランスは？
- ・賢い外食選びのポイント
- ・遅い時間の夕食のポイント
- ・朝食を食べる生活を始めましょう
- ・魚の栄養と食べる工夫
- ・野菜は1日350g以上食べましょう
- ・間食の食べ方を見直しましょう
- ・朝、昼、夕1日に食事で「主食」・「主菜」・「副菜」を揃えましょう



◎DVD

- ☆「防ごう!メタボリックシンドローム」
- ☆「メタボリックシンドロームを予防するボディデザイン体操」



検診センターのホールを利用し 絵画などの作品を展示

当協会の山形と庄内の両検診センターでは、地元の高校生や大学生、個人の方の絵画や人形などの芸術作品を展示し、受診者の目を喜ばせております。



山形検診センターでは、一年前から検診ホールを活用し、山形市内にある東北芸術工科大学から学生の作品をお借りし展示しております。作品は、岩絵の具を用いた日本画で、動物や人物、抽象画など様々です。これまで同大学の5つのグループの作品を展示しております。

一方、庄内検診センターでは、2階の休憩室の隣に「健康ギャラリー」を設け、主に管内の高等学校美術部の生徒の油絵や水彩画を展示しております。その他に、個人の方から雛人形(鶴渡川原人形)や創作人形などを展示しております。

庄内検診センターに作品を提供いただいた主な高等学校

- ・県立庄内総合高等学校
- ・県立酒田東高等学校
- ・県立酒田西高等学校

一日に50〜100人ほどの受診者が訪れる山形、庄内検診センターでは、待ち時間や検診が終わったあとなどに観ていただき、感想などもいただいております。今後も展示を続けていく予定でありますので、受診の際は是非ご覧いただき、また、学校関係の方など展示をご希望される方は、各検診センターまでご一報ください。

ありがとうございます

☆きらやか友の会様より23年連続でご寄付いただきました

去る12月18日(火)、きらやか銀行本店(山形市)において、きらやか友の会様より、がん・生活習慣病征圧のためにと寄付金(30万円)をいただきました。

きらやか友の会は、同銀行の関連会社である寿商事が取扱っているがん保険加入者の出資で運営されており、がんなどの疾病予防を目的とした様々な事業を行っております。当協会へのご寄付もこの一環であり、今年で23回目となります。



検診センターネットワーク

どちらの検診センターでもお受けいただけます。
お近くの検診センターをご利用下さい。



庄内検診センター



酒田市東町一丁目23-1
TEL.0234-26-1882 FAX.0234-26-2786



最上検診センター



新庄市大手町2-49
TEL.0233-23-3411
FAX.0233-23-3413



山形検診センター・細胞診センター・事務局



山形市蔵王成沢字向久保田2220
TEL.023-688-6511 FAX.023-688-3734



南陽検診センター



南陽市三間通466-5
TEL.0238-43-6303 FAX.0238-43-6972



米沢検診センター



米沢市西大通一丁目5-66
TEL.0238-21-8811 FAX.0238-21-8812



「しあわせ」第 67 号

発行所 (財) 山形県結核成人病予防協会

発行人 有海 躬行

郵便番号 990-9581

住所 山形市蔵王成沢字向久保田 2220

TEL 023(688)8333